



# 平成30年度事業計画書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

学校法人多摩美術大学

## 目 次

はじめに	1
1. 中長期的な基本計画	1
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	
(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備	
(4) 国際交流の推進・制度化	
(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	
(6) 研究ブランディング事業	
(7) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	
(8) 管理運営の強化	
2. 2018（平成30）年度事業計画の概要	2
(1) 教育及び研究体制の整備と再点検	2
1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善	
2. 大学基準協会認証評価（2015年度申請）結果の対応	
3. 研究成果発表の充実	
(2) 学生受け入れ態勢の強化	4
1. 推薦入学試験の実施	
2. 進学相談会等の取り組み	
3. 学生支援	
(3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備	5
1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充	
2. 交換留学制度（派遣・受入）	
3. パシフィック・リム・プロジェクト「Pacific Rim」	
(4) 国際交流の推進・制度化	6
1. 海外大学との連携	
2. 海外留学の促進	
3. 学内の国際化	
4. 地域のグローバル化対応に貢献	
5. 外国人留学生への就職支援	
(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革	7
(6) 研究ブランディング事業	7
1. 研究ブランディング事業	
2. 事業推進に向けた取り組み	
(7) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備	7
1. 上野毛キャンパス整備	
2. 八王子キャンパス整備	

(8) 管理運営の強化	8
1. 人事管理・労務管理	
2. 人材育成　－職員の資質・能力向上－	
3. 法改正及び危機管理対応	
4. 財政基盤の強化	
<b>3. 2018（平成30）年度事務部門の計画（骨子）</b>	<b>9</b>
(1) 教育改革面の推進計画	9
教務部、入学センター、研究支援部、学生部学生課、 学生部就職課、図書館、美術館、メディアセンター、 生涯学習センター、芸術人類学研究所	
(2) 管理運営面の推進計画	14
総合企画室、総務部、経理部	

## 2018（平成30）年度事業計画

### はじめに

本学の淵源は、1935（昭和10）年9月開設の多摩帝国美術学校にある。本学は、北吟吉、杉浦非水、井上忻治、牧野虎雄らが中心となって、官立の美術学校にはない「自由なる精神」が生み出す美術の根源を求めて、東京府（現在の東京都）東京市世田谷区上野毛の地に創設された。以来83年「自由と意力」の理念の下、常に芸術の先端的な動向を切り拓き我が国の芸術文化の進展に寄与すべく、現代社会に貢献する優れた芸術家・デザイナー並びに教育者・研究者の育成を目標に掲げ、広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、あわせて国際社会に対応する幅広い教養を身につけた人材の育成を目指して努力を重ね、これまで全課程において4万1千6百有余人の才能溢れる卒業生を社会に送り出している。

### 1. 中長期的な基本計画

近年、社会に対して大学が担うべき役割は大きく変化してきている。グローバリズムの波が押し寄せる一方では、地域への貢献が強く期待されており、またAIの飛躍的な進展によって産業構造も流動化しつつある。芸術系大学である本学も当然ながらそうした状況に柔軟かつ大胆に対応していかなければならない。長い伝統の中で培われてきた安定した基盤を踏まえ、芸術の王道を行くという矜持を保ちつつ、新たな時代を先導的に切り開いていく人材を育成するという大いなる使命を果たすべく、決意を新たにしているところである。

本学では建学以来「自由と意力」をモットーに掲げてきたが、それを踏まえた具体的な教育方針としてはディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）という三つのポリシーを定めている。中長期的な事業計画もそれらに基づいて作成されているが、従来以上に重視されているのは、型にはまった職業観のみに拘束されることのない多様な人材を送り出すためにインターディシプナリーなプログラムを導入し、また入試においても複線化を推し進めて多様な資質を評価しようとしていることである。

アドミッション・ポリシー改革の手始めとして一昨年11月、全学科において推薦入試を実施し、表現者としてオリジナリティ溢れる創造力・発想力・表現力・企画力・応用力・柔軟性等を備えた意欲ある多様な入学生を迎えたところである。

また、学長のリーダーシップのもとに、本年度から研究ブランディング事業としてアート・アーカイヴ・センターを立ち上げる。「創造のためのアーカイヴ」を標榜する学内横

断的な研究組織で、資料を集積するばかりではなく、その成果を積極的にWeb、出版、シンポジウム、展覧会などで発信しようとするもので、学内の研究、教育、創作活動を活性化させると共に、学外との交流拠点となることをも目指している。

2018年度の事業計画策定にあたり、その前提となる中長期の基本計画は以下の通りである。

- (1) 教育及び研究体制の整備と再点検
- (2) 学生受け入れ態勢の強化
- (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備
- (4) 国際交流の推進・制度化
- (5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革
- (6) 研究ブランディング事業
- (7) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備
- (8) 管理運営の強化

## **2. 2018（平成30）年度事業計画の概要**

中長期の基本計画に基づき策定された事業計画の概要は次の通りである。

### **(1) 教育及び研究体制の整備と再点検**

#### **1. 教育課程、教育内容、教育方法等の改善**

- ①教育課程の体系化：  
カリキュラム、シラバス、時間割、出校表等の点検により教育課程を体系的に整備し授業と学事の円滑な実施に努める。
- ②カリキュラム改革への取り組み：  
2015年度に改訂した教養教育カリキュラム設計書に基づく、共通教育時間割のゾーン・ルール化やシェイプアップ化などの改革を進め、本学に相応しいキャリア教育を実践する。
- ③美術研究科博士前期（修士）課程における2018年度新設課程の計画履行：  
デザイン専攻・統合デザイン領域及び演劇舞踊専攻の設置趣旨、目的に沿った教育研究活動計画を完全履行する。
- ④産学官連携、地域連携、高大連携、大学間連携：  
全国芸術大学系コンソーシアム、大学コンソーシアム八王子、相模原・町田大学地域コンソーシアム、学校法人昭和大学などとの連携協働を通じて様々な組織や地域と芸術文化の振興、事業展開による芸術実践活動や人材育成を推進する。
- ⑤多様化する学生への対応：  
適切、親密な履修相談等を通じて欠席過多学生やケアを必要とする学生への修学

支援を推進する。

## 2. 大学基準協会認証評価（2015年度申請）結果の対応

2017年度に継続して以下の課題解決に取り組む。

### 【教員・教員組織】

#### ①教育課程の編成・実施方針、FD活動：

美術研究科の教育課程の編成・実施方針は課程ごとに定める。

美術学部の教育課程の編成・実施方針は、内容を見直しホームページで公表する。

授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動として研修会や講演会などを継続実施する。

### 【教育内容・方法・成果】

#### ②教育課程・教育内容：

美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして改善し同課程に相応しい教育内容を提供する。

#### ③教育方法：

年間履修登録可能単位数の上限設定を目指す。

美術研究科の博士前期課程における研究指導や学位論文作成指導を研究指導計画に基づいて確実に行う。

#### ④成果：

「課程博士」の取り扱いを見直すとともに課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進させる。

美術研究科博士前期課程および博士後期課程において学位論文や作品の審査基準を「履修案内」等に明記する。

### 【内部質保証】

#### ⑤自己点検・評価：

全学的なPDCAサイクルを機能させるため学内改革・大学評価申請本部の設置、構成メンバー、審議事項、自己点検・評価の周期等を定め、内部質保証についての恒常的な組織体制の機能を確実に進める。

## 3. 研究成果発表の充実

#### ①アートテーク：

ギャラリースペースやアーカイヴ研究、各種コレクション収蔵、自由デッサン室、大学院博士後期課程アトリエ、メモリアルルームなどで構成される知と創造の芸術的複合施設の利用による各種研究成果発表の充実向上を進める。

#### ②各棟ギャラリー：

各棟所在のギャラリー運営を各研究室へ移管する事で可能になった、適宜効果的な教育研究成果の発表を実施する。

## (2) 学生受け入れ態勢の強化

### 1. 推薦入学試験の実施

本学も激しい変化にさらされた社会環境にあつて、文化芸術のさまざまな局面で活躍し得る人材を育成することを重要なミッションとして掲げてきた。

一昨年度から全学的に導入した推薦入試はその意図を、先へと進めるもので、一般入試には無い面接試験などを通して各分野で望まれる資質、学びへの積極的な意欲、将来への明確な姿勢などが総合的に試された結果、表現者としてオリジナリティに溢れた多様な入学生を迎えてきた。

2年目となった推薦入試における志願者数も前年比8%増加の447人と募集人員166名に対し十分な数を得た。

2019年度においても更に完成度の高い推薦入試を目指し実行する。

### 2. 進学相談会等の取り組み

2018年度入学生の一般入試の出願者数は6,327人で昨年度に比べ579人増、率にして10%の増加であった。

昨年7月に開催されたオープンキャンパス+進学相談会の来場者数も9,667名と前年比1,246名増加しており、本学への関心の高さが出願者数増加に結びつく結果となって表れた。

今年度もオープンキャンパスと進学相談会を同時開催し来場者に教育研究施設や本学学生の元気と熱意を体感してもらう機会とする。

更に11月開催の芸術祭でも進学相談会を開き適宜適切な情報提供を行う。

また高等学校教員が開く各種大会や協議会、研究会とも繋がり強化を図る。

### 3. 学生支援

- ① 学生生活調査の結果を活用した学生支援体制の構築を図る
- ② 八王子キャンパス南側（本学所有地）における学生寮建築計画を推進する
- ③ 2015年から本学学生の受入れが始まった優先寮への入居者を拡大する

#### 【優先寮の概要】

施設名 ディアコニア橋本（株式会社共立メンテナンス運営）

所在地 相模原市緑区橋本6-6-10

八王子キャンパスから約2Km（橋本駅から徒歩5分）

構造等 2003年3月竣工、RC造6階建、全137室うち100室

- ④ 奨学金制度及び授業料減免制度による奨学事業

#### 【奨学金】

創立80周年記念	学内成績最優秀者	31名	各30万円給付
学業成績優秀者	学内成績優秀者	170名	各20万円給付
特別優秀顕彰	学内外の活動	28名	各10万円給付
研究活動奨励	博士後期課程在学者		各40万円給付

ワークスタディ	校務一定時間計画従事者	各24万円給付
交換留学生	本学から海外協定校へ留学	各20万円給付
大学院学修奨励制度	博士前期・後期課程在学者	各10万円給付

#### 【授業料減免】

緊急支援	家計支持者の後遺障がい等	年間授業料の最大1/2減免
経済的支援	前年度緊急支援制度適用者	授業料の20%減免
兄弟姉妹	正規課程に同時に在籍する場合	授業料の20%減免
博士前期課程	JASSO奨学金採用者	授業料の20%減免
私費外国人留学生	成績優秀・経済的な修学困難者他	授業料の20%減免
九州北部豪雨	当該災害被災者	授業料の50%~100%減免

これ以外に団体や個人からの寄付金が原資となっている奨学金が複数ある。  
これらの制度による奨学事業費は総額2億円余となり学生支援が一層拡充する。

### (3) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成のための環境整備

#### 1. 新たな交換留学実施のための海外協定校拡充

海外大学協定校は現在22大学であり、このうち2017年度中に交換留学生として学生が派遣されたのは10大学15名、協定校から受入れた留学生は12学19名である。

海外へ赴く学生や海外から受入れる留学生を通じて、グローバル感覚が涵養されることから海外協定校の拡充を進める。

#### 2. 2018年度交換留学制度（派遣・受入）

交換留学により協定校との連携を深め、双方の交流を図りグローバルな人材育成を目指す。

##### ○交換留学生<派遣>

- ベルリン芸術大学（ドイツ）3名
  - アアルト大学（フィンランド）2名
  - 弘益大学校（韓国）2名
  - オスロ国立芸術大学（ノルウェー）2名
  - ロイヤル・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）以下1名
  - グラスゴー美術学校（イギリス）
  - チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ（イギリス）
  - 国立高等装飾美術学校（フランス）
  - 国立台湾芸術大学（台湾）
  - シラパコーン大学（タイ）
  - シンシナティ大学（アメリカ）
- 合計11大学16名の学生が推薦されている。



○交換留学生<受入>

ベルリン芸術大学 2名

ヨーテボリ大学（スウェーデン） 2名

ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ） 2名

アアルト大学 以下1名

弘益大学校

中央美術学院（中国）

シラパコーン大学

合計7大学10名が確定している。

### 3. パシフィック・リム「Pacific Rim」プロジェクト

1981年度にアートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（アメリカ）が実施した研修会に本学学生が参加して以来、28年間に亘り継続された海外交流を2006年度から「Pacific Rim」プロジェクトと呼称し、隔年毎に学生が相互の大学を訪れて環境保護や自然災害など時勢に沿った社会問題等をテーマとして、学生同士が協働して行う学際的協働研究授業を12年間にわたり実施している。

今年度は9月～12月に両校各10名による日本ステージが開催される。

## (4) 国際交流の推進・制度化

創立90周年を迎える2025年までに以下の課題に取り組む

### 1. 海外大学との連携

国や地域のバランスを考えつつ現在の協定校を22校から25校へ増加させる

### 2. 海外留学の促進

海外協定校との交換留学プログラムに参加する学生に、派遣時期・期間や奨学金など参加しやすい環境を整え年間20名の派遣を目指す

### 3. 学内の国際化

留学生との交流を活発にするため受入れ留学生数400名を目指す

日本語が苦手な海外協定校からの交換留学生に対し、英語対応可能な科目の拡充と基礎的な日本語能力が身につく機会の提供

### 4. 地域のグローバル化対応に貢献

地元中学校との連携促進とともに地域のグローバル化対応を支援  
外国人留学生の地域行事への参加を通じて住民との交流を促進

### 5. 外国人留学生への就職支援

外国人留学生対象の就職説明会を実施  
求人情報やイベント案内を提供  
外国人留学生の就職相談窓口の明確化などの就職支援を強化

#### **(5) 専門性と総合性の融合を目指した教育改革**

美術学部は八王子キャンパスに8学科5専攻2コース、上野毛キャンパスに2学科2コースが設置され、それぞれが高い専門性を持った教育研究を進める一方で、各学科が個別にタテ割りで貫かれておりやや総合性に欠けることがある。

これを補う視点から、本学が目指す専門的職業人や独立した作家の育成に不可欠なプログラムとして、全学年・全学科の学生が履修できる課題解決型のPBL

(Project Based Learning) 科目や企業及び自治体との産学官共同研究、著名な企業人や作家を招く特別講義など全学科対象のオープン科目を導入し、学生が授業を通じて触発し合うことにより、柔軟な考え方や新たな創造を生み出す取り組みを継続的に実施する。

また、共通教育においては総合的な教養に配慮して芸術を目指すものの基盤を重視した科目を配置する。

#### **(6) 研究ブランディング事業**

##### **1. 研究ブランディング事業**

文科省が進める研究ブランディング事業は学長のリーダーシップのもとで、学内における特色ある研究の成果を自ら大学の価値に位置付け再整理し、広く世に伝えるためのプロセス設計や全学的管理体制の仕組みを構築し自校のブランディングに繋がる活動全般について実行する。

##### **2. 事業推進に向けた取り組み**

- ①ブランディング事業にかかる関連規程の整備
- ②アート、デザイン、メディアアート（映像、アニメ、漫画、メディア芸術）の3本柱をコアとする国際アート&デザインのアーカイヴ拠点となる附属アートアーカイヴセンターを形成する
- ③アート作品をソフトウェア的に捉えて分析記述しその結果を保管するリポジトリの構築
- ④リポジトリを公開共有し、複数のバージョンをオープンに発展させることを可能にする
- ⑤このアートアーカイヴセンター構想を本学ブランディング事業として展開する

## (7) 教育・研究環境の充実にに向けたキャンパス整備

本学の校地及び校舎面積は国が定める大学設置基準を満たしており、上野毛キャンパスと八王子キャンパスにおいて、それぞれの立地の特性を活かした教育研究活動が行なわれている。

特に教育研究領域に対応する専門施設に加え、共同施設（図書館、美術館、メディアセンター、アートテーク、セミナーハウス奈良飛鳥寮・山中純林苑、アキバタマビ21等）も充実しており所属学科領域外のことに触れて学ぶことができる十分な環境が整備されている。

### 1. 上野毛キャンパス整備

- ①キャンパスに隣接する道路（都道駒沢通り）拡幅計画にかかる対応を進める
- ②上野毛キャンパス整備計画の策定を進める  
2019年度着工～2026年度竣工を目指す

### 2. 八王子キャンパス整備

- ①過年度に実施された施設設備の修繕や改修工事履歴に基づく、長期修繕計画をまとめ効果的な施設設備の改修工事を実施する
- ②キャンパス整備計画により建築され、その後維持改修計画を策定された各建物を計画に基づき改修する
- ③八王子キャンパス南側遊歩道隣接地における学生寮の建築計画を推進する  
2018年度着工～2019年度竣工を目指す  
＜学生寮建築のコンセプト＞
  - a. 寮長・寮母が24時間常駐し入居者対応
  - b. RA（レジデント・アシスタント）制度による→入居者ケア
  - c. 入居者へ安全・快適な居室とバランス良い食事の提供
  - d. 経済的負担の軽減
  - e. 多様性あふれる学友との交流を通じた成長
  - f. 留学生と共生することで身につく国際化の推進

#### 【学生寮の概要】

RC造 地上7階建

全213室（個室210室、管理人住戸、スタッフルーム、バリアフリー住戸）

- ④学生食堂に付帯する売店をコンビニエンス化して機能と利便性の向上を高める

## (8) 管理運営の強化

### 1. 人事・労務管理

- ①新規導入の人事システムの円滑な移行運営を実行する
- ②人事システムとの連携による勤怠管理システムの確立を目指す

③人事・サービス関係規程の課題整理と改善を実施する

## 2. 人材育成 ー職員の資質・能力向上ー

- ①SD推進による職員力・組織力の強化と高度化を図る  
＜育成型人事考課制度、目標管理制度、学内外研修受講制度他＞
- ②自己申告制度に基づく個別面談の実施

## 3. 法改正及び危機管理対応

- ①2015年12月より法制化されたストレスチェックの利用率向上を目指す
- ②2016年1月より施行されたマイナンバー制度の円滑な運用に努める
- ③災害発生時の地域自治体との協力・連携による安全管理体制を維持する

## 4. 財政基盤の強化

- ①2019年10月からの消費税増税に対応すべく財政基盤強化のため、効率的な予算執行と無駄を省く経費削減を進め安定した教育研究資金の確保に努める
- ②年間を通じた寄付金募集や積極的な補助金申請・獲得を実行する
- ③管理経費支出は前年度実績の▲3%を目標に削減させる
- ④2033年までの今後15年間に亘る18歳人口減少等の影響を取り込んだ財務シミュレーションを作成し理事者による経営判断資料とする

# 3. 2018（平成30）年度事務部門の計画（骨子）

事務部門における主な計画の骨子は以下の通りである。

### (1) 教育改革面の推進計画

#### 教務部

- ①教育課程、教育内容、教育方法等の改善に向けた取り組み  
教育課程の体系化、授業運営の実質化および改善、単位制度の実質、カリキュラム改革への取り組み、教育方法の改善、厳格な成績評価への取り組み。  
多様化する学生への対応、職員の職能開発（SD）、高大連携（小中も含む）の推進、大学間の連携促進、美術研究科博士前期課程（修士課程）における新設領域の設置計画に基づく着実な履行。
- ②大学基準協会大学評価（2015年度申請）における指摘課題への対応  
【教員・教員組織】
  - ・昇格及び大学院指導資格の基準を明示する
  - ・授業改善の他、教員の資質向上のためのFD活動を実施する【教育内容・方法・成果】

- ・教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針：  
美術研究科の教育課程編成や実施方針をホームページ等により広く公表する
- ・教育課程・教育内容：  
美術研究科博士後期課程は課程制大学院制度の趣旨に照らして同課程に相応しい教育内容を提供する
- ・教育方法：  
1年間に履修登録できる単位数の上限設定を目指す  
美術研究科博士前期課程における改善勧告とされた研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を実施する
- ・成果：  
美術研究科博士後期課程において「課程博士」としての学位授与を見直し、課程制大学院制度の趣旨に留意し修業年限内の学位授与を促進する

#### 【内部質保証】

- ・自己点検評価・評価の定例化
- ・学内改革・大学評価申請本部の設置及び構成メンバー、審議事項や自己点検評価を定め内部質保証への恒常的な組織体制を機能させる

#### ③三つのポリシーの一体的な策定及び公表

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令（第16号）」に係る整備対応（「卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）「入学者の受入に関する方針」（アドミッション・ポリシー））について理念、目的、目標に沿った検証と見直しを行い具体的かつ一体的整備の実施

#### ④2016年の教育職員免許法の改正に伴う、教職課程の再課程申請にかかる2019年度からの新課程実施に向けた準備と履行

#### ⑤新コンピュータシステムへの移行

基幹システムとしての新教務システムへの着実な移行  
情報共有化の推進と他部門との連携強化  
情報管理のマニュアル化推進

#### ⑥国際交流の推進・制度化等によるグローバル化

海外協定校の拡充及び交流促進（共同授業・ワークショップ・異文化体等）  
Pacific Rim13（日本ステージ）の実施  
交換留学生に係る外部資金の獲得・活用  
留学ガイドブックの作成  
国際交流危機管理マニュアルの制定  
私立大学等改革総合支援事業タイプ4「グローバル化」助成の獲得

- ①推薦・特別・大学院入学試験のWeb出願システムの導入と実施
  - ・新合否システム導入（全入試種別対応）
  - ・新入試システムの構築と実施
  - ・入試変更点のスムーズな対応
- ②外国人留学生の対応について
  - ・研究生選考の見直し、制度の確認
- ③大学入学共通テスト（新テスト）導入について
  - ・30年度のプレテスト結果を踏まえての検証
- ④新しい広報ツール利用による効果的な広告や資料発送の実施
  - ・SNSなどの利用による告知力の強化
- ⑤有効なイベント計画と広報業務の効率化
  - ・オープンキャンパス内容見直しと動員強化
  - ・高校教員に向けた広報の強化
  - ・芸術祭での進学相談会の有効活用
  - ・地方や美術系以外の一般会場における進学相談会参加や周辺高校へのアプローチ
- ⑥公的機関との連携強化
  - ・全国高等学校美術工芸研究大会、全国高等学校文化連盟、全国美術高等学校協議会、全国高等学校演劇協議会他

## 研究支援部

---

- ①研究費に関するルール・事例集の整備
  - 科研費学内ルール改訂版作成、外部資金による研究費使用事例集の更新
- ②公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備の促進
  - 不正防止のための体制整備、学生や非常勤講師への研究倫理教育
- ③学内研究活動の活性化と情報公開促進
  - 研究成果の発信強化（成果報告会・ひらめき・ときめき・機関リポジトリ活用など）、産学共同研究受託の増加、研究紀要の発行（Webでの発行研究戦略の立案）
- ④アートテークの管理・運営
  - ギャラリーの管理運営、アーカイブセンター運営
- ⑤私立大学研究ブランディング事業への応募
  - 事業実施のための企画提案、事業体制確立の準備作業

## 学生部学生課

---

- ①奨学金等に関する見直し
  - 日本学生支援機構奨学金の業務体制見直し、本学奨学金・授業料減免制度の見直しと整備

- ②学生満足度の向上  
2017年度の学生生活調査分析を受けて課題解決に向けた対応
- ③学生支援に関する見直し  
学生生活調査分析を受けて学生支援方針の策定を進める
- ④多様化する学生支援  
障がいを持つ学生への合理的配慮に基づく支援  
欠席過多等の要ケア学生に対し研究室との連携による早期発見と支援
- ⑤上野毛キャンパス学生への課外活動等支援  
課外活動の拠点となる八王子キャンパスでのクラブ加入率を高める施策の検討  
上野毛キャンパスにおける学生の交流スペースの拡充検討  
地域連携によるボランティア活動やコラボレーション情報の提供

## 学生部就職課

---

- ①進路・就職支援の推進強化  
就職内定率<85%以上>の向上
- ②ガイダンス・学内企業説明会参加率の向上  
研究室との連携強化、ガイダンスの充実
- ③低学年からの進路・就職に対する意識向上  
低学年向けガイダンスの充実、OB・OGによる講演会開催他
- ④上野毛美術学部進路・就職支援対策  
前年実績に基づく進路・就職状況の検証による就職率・内定率向上
- ⑤配慮を要する学生及び留学生への進路・就職支援  
関連部署との情報共有化、留学生向けガイダンスの開催

## 図書館

---

- ①「学生のための図書館」サービスの充実と学内利用者の満足度向上  
図書館の利便性向上と利用促進、学習環境・設備の改善  
図書館資料を活用した展示の実施と専門図書館に相応しい蔵書の構築
- ②大学からの情報発信への貢献  
大学史に関する資料の収集・整理<総合企画室との協働>  
瀧口文庫・北園文庫の閲覧、貸出体制の構築<研究支援部との協働>  
機関リポジトリの運営体制の確立<研究支援部との協働>
- ③開かれた図書館を目指して  
図書館活動に関する情報公開と利用者の意見を反映する仕組み作り  
アーケードギャラリーの活用促進、八王子図書館の見学対応の体制構築
- ④管理・運営のレベルアップ  
八王子・上野毛両館の業務のシームレス化、

業務委託のレベルアップと両館業務統一化  
他部署との連携による各システムの円滑な更新  
幅広い知識と見識を持った人材の育成

## 美術館

---

- ①展覧会開催（収蔵コレクション展等年間7本〈仮称〉）
  1. コレクション展Ⅰ 杉浦非水の花鳥画―百花譜とスケッチ
  2. ミュオグラフィー アート&サイエンスの出会い
  3. 第11回国際絞り会議 in Japan 企画展「SHIBORI―融合と進化―」
  4. 兵庫県 加東市 文化財展
  5. 東京国際ミニプリントトリエンナーレ2018
  6. コレクション展Ⅱ 福沢一郎 生誕120周年記念展
  7. 多摩美術大学博士課程展2019
- ②博物館実習生受入れ  
本学学生及び他大学からの博物館実習希望者約70名
- ③運営委員会の開催  
年2回（6月、10月）

## メディアセンター

---

- ①研究センター：データベースを使った研究活動支援
- ②情報センター：学内ネットワーク環境の整備、新システム移行対応
- ③映像センター：学生の制作意欲を高める機材構成の充実化、  
ワークショップ参加学生への制作支援  
3DCGスタジオのソフト更新、撮影スタジオへのLED照明導入
- ④写真センター：暗室・撮影スタジオ施設、写真機材の有効活用及び授業に係る実習サポート、写真制作に必要な知識・技能向上の講習会開催
- ⑤工作センター：安全衛生診断に基づく安全第一の運営、制作サンプルや講習会開催による3D切削機の稼働を高める
- ⑥CMTEL：展示収蔵品の収集・充実、学生の制作活動に係る実践的サポートの実施、全学生対象のワークショップ開催、提供サンプルの充実
- ⑦上野毛スタジオ：機材整備、写真・撮影・録音スタジオ施設の利用・制作上必要な知識や技術講習会の開催
- ⑧事務室：Adobe CCセミナー、モデリングソフトのワークショップ開催、デジタルサイネージの活用

## 生涯学習センター

---

- ①生涯学習事業を通じて本学の持つ潜在的な力・リソースによる社会へのアピール
- ②こども講座における事業展開と新たな連携プロジェクトの発掘



- ③都心及び上野毛キャンパス周辺で行うフラッグシップ事業の検討
- ④上野毛キャンパスでの活動再開を視野に入れた中・長期的プラン作成
- ⑤W e bや他広報媒体の活用で活動の周知と事業の更なる活性化を図る

## 芸術人類学研究所（I A A）

### 1. 研究プロジェクトと連動した大学内外における連携活動の推進と教育活動

- ①学内連携と本学学生への研究成果還元
  - ・学内各学科、美術館、生涯学習センターとの連携、
  - ・「土地と力」プロジェクト・学内シンポジウム開催（全学生聴講開放）  
学生へ研究所主催の研究会の開放、
  - ・「はじまりの線刻展（仮）」本学アートテーク展示企画（6月）
- ②社会連携
  - ・学外研究機関、自治体、出版社等との共同プロジェクト
- ③地域連携
  - ・各種ワークショップ、里山（植樹）プロジェクト

### 2. 研究会・プロジェクトの推進とプロジェクト間の連携

- ①「土地と力」プロジェクト
- ②ユーロ＝アジアをつらぬく美の文明史プロジェクト
- ③野外をゆく詩学プロジェクト
- ④贈与と祝祭の哲学プロジェクト
- ⑤来たるべき美術プロジェクト
- ⑥纏れのデザインプロジェクト

## (2) 管理運営面の推進計画

### 総合企画室

- ①入学試験に関する市場調査並びに諸統計の収集・分析（志願者・入学者データに基づく学生募集の対応を提案する）
- ②広報誌のクオリティアップ（「大学案内」のリニューアル「TAMAB I N E W S」の編集強化並びに制作目的の細分化による新たな制作物の検討と結果の検証を行う）
- ③ホームページの見直し（W e bサイトの再構築と他のW e bメディアやS N S、アプリ等との組み合わせを検討しW e b広報を広報の柱とする）
- ④大学広報・I R活動の強化（広告目的やコンセプトを再構築の上、各種広告物の効果を検証し、より広告効果が高いものへシフトする）
- ⑤パブリシティの獲得（学内外の情報収集と情報発信のためのレギュレーションを整備しパブリシティの獲得を目指す）

## 総務部

---

### 1. 施設整備計画

#### 【上野毛キャンパス】

##### ①上野毛キャンパス整備計画の始動

駒沢通り拡幅にかかる校地買収による校舎取り壊しと仮設校舎建築

#### 【八王子キャンパス】

##### ②キャンパス南側隣接地へ学生寮新築（RC造、地上7階建）

##### ③GHP・EHP空調更新工事（メディアセンター、デザイン棟）

##### ④受変電設備更新工事（絵画北棟）

##### ⑤校内各所所在の和式トイレを洋式化へ改修

##### ⑥学内売店のコンビニエンスストア化

#### 【美術館】

##### ⑦受変電設備、火災受信盤、防火シャッター更新

### 2. 管理運営計画

##### ①労務管理・人事評価制度の見直し

##### ②人材の採用・育成

##### ③法改正および危機管理への対応

##### ④山中純林苑、奈良飛鳥寮セミナーハウスの管理・運営

##### ⑤各建物の長期修繕計画推進（年数別の修繕計画、改修履歴データ化）

##### ⑥災害備蓄品の更新

## 経理部

---

##### ①資産運用基準変更及びポートフォリオの実践

##### ②経営判断資料として2033年までの財務シミュレーション作成

##### ③財務基盤強化（教育研究経費支出の現状維持と管理経費支出の目標値

▲3%削減、寄付金・各種補助金の獲得増加の検討）

##### ④2019年10月消費増税にかかる対応策の検討

以 上